

長い冬が続き、暖かな日差しを心待ちにする、ここオホーツク枝幸町に、一足先に春が訪れました。今日の佳き日、希望に満ち大きな可能性を秘めた若者たちが新しい人生へと旅立ちます。

本日、北海道枝幸高等学校第64回卒業証書授与式を挙げるに当たり、本校の教育活動に多大なるご支援をいただいております。枝幸町長 村上守継様をはじめ多くのご来賓の方々のご臨席と保護者の皆様のご列席を賜り、厚くお礼申し上げます。

保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。三年間、時に喜び、時に心配しながら、温かく見守ってこられたことと思います。今までのご苦労に対し敬意を表するとともに、本校の教育活動へのご理解とご協力に、高い壇上からではありますが感謝申し上げます。

さて、卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんの三年間の努力に対して心から拍手を送ります。「教えることは学ぶこと」ということばがありますが、皆さんほど、そのことを実感させてくれたことはありません。私たちは皆さんから三つのことを学びました。

第一に挨拶の大切さです。私が掲げた「先手挨拶」の心をよく理解し、目配り、気配りをし、自分から「おはようございます」「こんにちば」を心がけていました。先手をとることは、甘えないということです。思い上がらずに、自分から心を開くということです。仏教の禅宗の教えでは、挨拶で瞬時にお互いの悟りを判断できると言います。挨拶に人の内面が現れます。是非、これからも「先手挨拶」を広めてください。

第二に思いやりの大切さです。思いやりがないということは、自分の考えや感情が全てだということです。人にはそれぞれ個性があり、感じ方や考え方に違いがあります。社会において生きるということは、年齢はもちろんのこと、経験や価値観が異なる人たちと対話をし、ベクトルの向きをそろえ、力を合わせるということです。私は、学校祭などの行事や部活動、日頃の行動など随所に皆さんの思いやりを感じました。これからも、相手の気持ちを想像し、理解し合い、楽しく生活できるよう努めてください。

第三に素直であることの大切さです。皆さんの素直さは筋金入りの素直さであり、単に他人の言うとおりにすることではありません。私は能動的素直さと呼ぼうと思います。先入観や固定観念にとらわれずに、新しいことを受け止め、自分なりに答えを出して対応する素直さです。私は皆さんに様々な問いかけをしました。形式的ではなく、必ず自分のことばで考え、答えてくれました。これからも、とらわれず、決めつけることなく、素直に受け止め、考えてください。自分で問い、答えてみて、さらに問い直す、答え直す。そうした柔軟な精神を持ってください。

以上の皆さんからの三つの学びを私たちは忘れません。ありがとうございました。

最後に一つ詩を紹介します。谷川俊太郎の「ぼくは言う」です。一部分を読みます。

ぼくは言う

大げさなことは言いたくない

ぼくはただ みずは透きとおっていて冷たいと言う

のどがかわいた時に水を飲むことは

人間のいちばんの幸せのひとつだ

確信をもって言えることは多くない

ぼくはただ 空気はおいしくていい匂いだと言う

生きていて息をするだけで

人間はほほえみたくなるものだ

あたり前なことは何度でも言っている

ぼくはただ 鯨は大きくてすばらしいと言う

生きているということ、あたり前だがすばらしいことを大事にしてください。皆さんの中にはまだまだ伸びる枝があります。世界も広いです。皆さんが、枝を伸ばし、幸せな人生を歩むことを祈り、洋々たる前途を祝し、式辞といたします。